

大 防 第 1030号
平成21年9月29日

関係各位

大阪府病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

標記について次のとおり発表したの送付します。

病害虫発生予報第6号(10月)

平成21年9月28日
大阪府病害虫防除所

農作物名	病害虫名	予想発生量
みかん	黒点病	□
	そうか病	□
	ミカンハダニ	△
	ミカンサビダニ	□
果樹全般	果樹カメムシ類	▲
なす	うどんこ病	□
	ハモグリバエ類	□
トマト ミニトマト	トマト黄化葉巻病(TYL CV)	□
	コナジラミ類	□
きゅうり	うどんこ病	□
	炭そ病	□
	べと病	□
	ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)	□
	ハモグリバエ類	△

キャベツ等アブラナ科 野菜類	コナガ類	□
	ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)	□
野菜類 花き類	アブラムシ類	○
	ミカンキイロアザミウマ	△
	ミナミキイロアザミウマ	□
	シロイチモジヨトウ	□
	ハスモンヨトウ	□
	オオタバコガ	□
	ハダニ類	□
きく	黒斑病・褐斑病	□
	白さび病	□
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

10月気象予報(大阪管区气象台9月25日発表)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

A 果樹

1 みかん

【黒点病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)10月の降水量は平年並と予想されている。

[メモ]

(1)この病気は、枯枝上から雨滴によって広がっていく。

【そうか病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年並であった。

【ミカンハダニ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)同一薬剤や同一系統の薬剤を連用すると、抵抗性が発達する恐れがある。

(2)合成ピレスロイド系の殺虫剤(アディオン等)は、天敵を減らすため、多用するとハダニ類増加を招く恐れがある。

【ミカンサビダニ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、被害果の発生はやや少なかった。

(2)植物防疫協力員からの報告では、一部で被害果の発生がやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)樹高の高い樹の上部や密植された場所など、薬剤がかかりにくい部分から発生しやすい。

(2)微小な害虫で発見は困難なため、被害果が発生するまで気づきにくい。

(3)被害果が多く見られるようになってからの薬剤散布では、十分な防除効果を得にくい。

2 果樹全般

【果樹カメムシ類】

[予報内容]発生量:少ない

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップの誘殺虫数は少なかった。

(2)植物防疫協力員からの報告では、発生は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1) 発生状況は園による差が大きい。
- (2) かきなどの果樹が被害を受けやすい。

B 野菜類

1 なす

【うどんこ病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。
- (2)発生初期の防除を徹底する。
- (3)樹勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

[メモ]

(1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

【ハモグリバエ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年並であった。

2 トマト・ミニトマト

【トマト黄化葉巻病(TYLCV)】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査で発生が確認された。

(2)植物防疫協力員からの報告では、発生は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)感染後の治療薬はないので感染株はすぐに処分する。
- (2)抜き取った感染株からの伝染を防止するため、感染株をビニル袋等に入れて口を縛り、完全に枯死させてから処分する。
- (3)タバココナジラミがウイルスを媒介するので、コナジラミ類の防除に努める。
- (4)ハウス周辺に、こぼれ種等から発芽したり、残渣から再生したトマトがあれば、処分する。

【コナジラミ類】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では発生は平年並であった。

(2)植物防疫協力員からの報告では、発生は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除に努める。

(2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(5)ほ場周辺の除草にも努める。

[メモ]

(1)タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介する。

3 きゅうり

【うどんこ病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月後半の巡回調査では、発生は全体的には少なかったが一部では多かった。

(2)植物防疫協力員からの報告では、発生は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。

(2)発生初期の防除を徹底する。

(3)樹勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

[メモ]

(1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

(2)ストロビルリン系剤(アミスター、ストロビー)の連用は避ける。

(3)ストロビルリン系剤の使用時には、薬害の恐れがあるため、浸透性展着剤は加用しない。

(4)ブルームレス台木では、うどんこ病が発生しやすい。

【炭そ病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年と同様に見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウス内の過湿を避ける。

(2)窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料のやりすぎに注意する。

【べと病】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、一部で発生が見られた。

(2)植物防疫協力員からの報告では、発生は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウス内の過湿を避ける。

(2)肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。

【ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)植物防疫協力員からの報告では、発生は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウスの開口部を寒冷紗(2mm 目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(2)食害株の幼虫を捕殺する。

【ハモグリバエ類】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウスの開口部を寒冷紗(1mm 目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

4 キャベツ等あぶらな科野菜および葉ぼたん

【コナガ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

- (1)9月の巡回調査(キャベツ)では、発生は平年並であった。
- (2)9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期の防除を徹底する。

【ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

- (1)9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。
- (2)植物防疫協力員からの報告では、一部で多発生している一方、無発生や少発生も多く、地域やほ場による差が著しい。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期に防除を徹底する。
- (2)被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。

[メモ]

[防除上考慮すべき事項]

- (1)苗床は寒冷紗等(2mm目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (2)食害の見られた株は、速やかに処分する。

C 野菜・花き類

【アブラムシ類】

[予報内容]発生量:やや多い

[予報の根拠]

- (1)9月後半の巡回調査で発生は、なすでは平年並であった。
- (2)9月の黄色水盤による誘殺虫数はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)少発生時の防除を徹底する。
- (2)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

[メモ]

- (1)アブラムシ類は多種類のウイルス病を媒介する。

【ミカンキイロアザミウマ】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

- (1)9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。
- (2)9月の青色粘着トラップへの誘殺虫数はやや少なかった。

[メモ]

(1)ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマは、ウイルス病(TSWV)を媒介する。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の露地なす巡回調査の見取り調査や花たたき法による調査では発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。
- (2)同一薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。

【シロイチモジヨトウ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。
- (2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm目合で可)で被覆すれば、成虫の侵入を阻止できる。
- (3)フェロモンディスペンサーを設置すれば、成虫の交尾を阻害し、被害を軽減できる。
- (4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる

【ハスモンヨトウ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

(2)植物防疫協力員からの報告では、一部で発生が多かった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。
- (2)卵塊が付着していたり、若齢幼虫が集団で食害している葉は、直ちに摘葉し、ほ場から持ち出して処分する。
- (3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm目合で可)で被覆すれば、成虫の

侵入を阻止できる。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【オオタバコガ】

[予報内容]発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月下旬の巡回調査では、なすで被害の発生は平年並であった。

(2)9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並かやや多かった。

(3)植物防疫協力員からの報告では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)被害のあった新芽や果実は早期に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm目合で可)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハダニ類】

[予報内容]発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査での発生は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避ける。

[メモ]

・高温、乾燥条件で多発する。

●大阪府病虫害防除所ホームページ

<http://www.jppn.ne.jp/osaka>

防除指針を掲載しています(毎月更新)

●病虫害発生情報メールサービス

申込先 大阪府病虫害防除所メールサービス担当

TEL 072-958-6551(内線232)

<情報料無料>

年間約40件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府環境農林水産総合研究所(本部)

企画調整部技術普及課

おおさかアグリメール受付担当

TEL 06-6972-7666

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です。)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afr/zukan/index.html>

(社団法人大阪府植物防疫協会)